

書き込み年表 advanced⑬、ヨーロッパ中世史 3(十字軍遠征～レコンキスタ完了)
(国王、皇帝、教皇の年代は在位をあらわす)

中世後期概観(12C～15C) = 「ヨーロッパの拡大」 人口の拡大から領土の拡大へ

人口の拡大 例) イングランド、人口 110万人(1086)から 370万人(1346)へ(3.4倍)

要因 農業生産の拡大

開墾、沼地の干拓による耕地の拡大
三圃制農法の普及 春耕地 大麦、エン麦(春に種をまく) 秋耕地 小麦、ライ麦(秋に種をまく)
休耕地 豆を栽培、または放牧

重量有輪犁の使用(重い土を深く耕せる)水車、風車などの動力の使用 → 余剰生産物(作物)が生じる

結果 農作業の共同作業進み、農民が集まって住むように(集村化)

独立自営農民(ヨーマン)の出現 領主が戦時の出費をまかなう必要 → 余剰生産物を市場で売り、利益を得る

地代を貨幣で払う(銭納化)、賦役の軽減 ← 貨幣経済の浸透

余剰生産物を買う市場の出現 交通の要所、城下などに都市が出現「都市の空気は自由にする」

都市同盟の出現(ハンザ同盟、ロンバルディア同盟)

古典荘園(中世前期)
農民が賦役と地代の両方を課せられた荘園

純粹荘園(中世後期)
農民が地代のみを支払う荘園

領土の拡大 ①十字軍遠征 → 結果 教皇権の失墜、貴族(諸侯)の没落、王権の強化(集権化) → 百年戦争へ(英・仏)

②東方植民 ドイツ騎士団による。プロイセンの原形 ③レコンキスタの完成(イベリア)

	イギリス	フランス	ドイツ(神聖ローマ帝国)	イタリア諸国家(+ローマ教会)	バルカン以東・東欧	
1070	ノルマン朝(1066～1154) ウィリアム1世(征服王, 1066～1087) 全国を檢地、ドゥームズデイ・ブック(檢地帳)を作成(1085)	カペー朝(987～1328) ノルマンディー公国	神聖ローマ帝国(962～1806) 叙任権闘争続く(教皇対皇帝) 会議を招集	ノルマン人の子孫、南イタリアを征服 ロベール、イタリア南部をルッジェーロ、シチリアを制圧	ビザンツ帝国 (イスラーム) セルジューク朝 マンジケルトの戦い(1071) ビザンツ敗北	
1100	ヘンリ1世(ウィリアムの子, 1100～1135) 娘マティルダ	クレルモン宗教会議(1095) → 十字軍遠征を宣言「神はそれを欲したもう」	ハインリヒ5世(1106～1125) ヴォルムス協約(1122) ・叙任権は教皇が持つ ・教会領など土地の承認は皇帝の権利	教皇ウルバヌス2世(1088～1099) 教皇に救援を要請 教皇カリクストゥス2世(1119～1124) 宗教騎士団 巡礼者の保護を目的 → 商業・金融活動へ	アレクシオス1世(1081～1118) 第1回十字軍(1096～1099) エルサレム王国(1099～1291) ヨハネ騎士団成立(1113) テンプル騎士団成立(1119)	
1150	ポルトガル、カスティリヤから独立(1143) アルフォンソ1世(1139～1185) ヘンリ2世(アンジュー伯, 1154～1189) ブランタジネット朝(1154～1399) ヘンリ、フランスの西半分を領有「アンジュー帝国」	アキテーヌ侯女、エレーノールと結婚 アキテーヌ公領(ギエンヌ) ボルドーを中心とするフランス南西部	フリードリヒ1世(赤髭王, 1152～1190) イタリア侵攻(1176) → ロンバルディア同盟軍に敗北	シチリア王国(1130～) ルッジェーロ2世(1130～1154) フリードリヒの南下政策に対抗し、ロンバルディア同盟結成 自治権確立	イスラーム反撃 エデッサ伯領奪還(1146) アンティオキア伯領一部奪還 第2回十字軍(1147～1149) アイユーブ朝(1169～1250) サラディン(1169～1193) エルサレム奪回(1187)	
1200	リチャード1世(獅子心王, 1189～1199) 十字軍の帰途、オーストリア大公の捕虜に 王の身代金の支払い、重なる軍事負担への不満 貴族たちの反抗 ジョン(欠地王、ヘンリの子、リチャードの弟, 1199～1216) カンタベリー大司教任命問題で教皇より破門 貴族たち軍役に拒否	王領地(パリ周辺)で官僚制を整備 都市との結びつきを強化 王権を強化 カタリ派の出現 南フランスに拡大	ドイツ皇帝のイタリア遠征に対抗 ドイツ騎士団成立(第3回十字軍以降)	都市共和国(コムーネ)ごとに教皇党(ゲルフ)、皇帝党(ギベルン)に分かれて対立 教皇インノケンティウス3世(1198～1216) 教皇権の絶頂 → 国王を次々と破門に	第3回十字軍(1189～1192) イギリス、フランス、神聖ローマ皇帝ともに参加 「教皇は太陽のごとく、皇帝は月のごとく」 第4回ラテラン公会議(1215) 異端審問の制度化 裁判の非公開、拷問を正当化 第4回十字軍(1202～1204) コンスタンティノープル攻撃(ヴェネツィア総督の提案) ラテン帝国(1204～1261)	
1250	カスティリヤ・ナバラアラゴン連合軍ムワッド朝軍に勝利(13C初頭) コルドバ、セビリヤを回復 シモン(1265)の議会招集(1265) 4身分議会 聖職者、貴族、騎士、市民 エドワード1世(1272～1307) ウェールズ征服 軍費調達のため、同意を得る必要 模範議会招集(1295) 初め4身分議会 二院制議会(貴族院と庶民院)へ 聖職者 → 貴族院へ 騎士 → 貴族院へ 市民 → 庶民院へ	マグナ=カルタ(大憲章)調印(1215) 貴族の権利を承認、王権を制限 ヘンリ3世(1216～1272) 大陸進出目指し、専制を強化 → 貴族の反乱 アルビジョワ十字軍が成功 → 南フランスに王権拡大 ルイ9世(聖王, 1226～1270) 第6, 7回十字軍を組織 ルブルック(フランチェスコ派修道士)をモンゴルに派遣(1253) 十字軍への協力要請のため ルイ9世、死後聖人に(1297) フィリップ4世(端麗王, 1285～1314) ギエンヌ(アキテーヌ)、フランドルに侵攻(1294～1298) 戦費捻出のため、教会に課税 全国の諸侯の支持を得るため、議会を招集 三部会(全国)を招集(1302) アナーニ事件(1303) 教皇を一時監禁 テンプレート騎士団解散(1308) 所領、財産を没収 教皇、アヴィニオンに遷居(1309)	ドイツ騎士団の東方植民(1230～1283) エルベ川以東、後のプロイセンの領土を開拓 大空位時代(1256～1273) ドイツ皇帝実質不在の期間 ルドルフ1世(ハプスブルク家 1273～1291) フランスアンジュー家の過酷な支配への反抗	アイユーブ朝と交渉(1228) エルサレムを一時回復(無血入城を果たす) フランチェスコ修道会創立(1209) ドミニコ修道会創立(1215) 托鉢修道会 都市での説教活動中心 大空位時代(1256～1273) 教皇インノケンティウス4世 プラノ=カルピニ(フランチェスコ派修道士)をモンゴルに派遣(1245) シチリア島民の反乱「シチリアの晩鐘」(1282) 教皇ボニファティウス8世(1294～1303) 教皇権の絶対性を主張(教書「ウナム=サンクタム」(1302)) サン=ピエトロ教会に詣でる者に贖宥(罪の許し)を与える、と宣言(1300) Unam Sanctam = 「唯一の、聖なる」	第5回十字軍(1219～1221, 1228～1229) ニケーア帝国のミカエル8世、コンスタンティノープル奪回(1261) ジェノヴァの協力 第6回十字軍(1248～1254) 第7回十字軍(1270) アンティオキア侯国滅亡(1268) ヴェネツィア商人マルコ=ポーロ、元の大都(北京)を訪問(13C末) トリポリ伯国滅亡(1289) アッコ陥落(1291)	
1300	エドワード2世(1307～1327) (フィリップの娘イサベルと結婚)	エドワード2世(1307～1327) (フィリップの娘イサベルと結婚)	「教皇のバビロン捕囚」(1309～1377)	教皇クレメンス5世(1305～1314)	オスマン帝国(1299～1922) オスマン1世(1299～1326) アナトリアのビザンツ領土を攻撃	
	イベリア・北欧	イギリス	フランス	ドイツ(神聖ローマ帝国)	イタリア諸国家(+ローマ教会)	バルカン以東・東欧

ヨーロッパ中世史3 (2枚目)

イペリア・北欧	イギリス	フランス	ドイツ(神聖ローマ帝国)	イタリア諸国家(+ローマ教会)	バルカン以東・東欧
	<p>エドワード3世(1327~1377, フィリップ4世の母方の孫) エドワード、フランス王位継承権を主張</p> <p>毛織物工業が盛んなフランドル地方の領有の問題</p> <p>北フランスに侵入(1339)</p> <p>百年戦争(1339~1453) クレシーの戦い(1346)</p> <p>ウィクリフの教会批判(14C半ば) 教会の蓄財を非難 教皇権を否定 聖書の教を第一に(聖書主義) 英語訳聖書を普及</p> <p>ベームン(チェコ)のフスの運動に影響</p> <p>デンマーク王女マルグレーテ、ノルウェー王に嫁ぐ</p> <p>マルグレーテ、デンマークノルウェーの実権を掌握(1380)</p> <p>さらにスウェーデンとの3国連合を組む</p> <p>カルマル同盟結成(1397)</p> <p>(ポルトガル) アヴィス朝(1385~1580) ジョアン1世(1385~1433)</p>	<p>フィリップ6世(フィリップ4世の甥, ヴァロワ伯, 1328~1350) ヴァロワ朝(1328~1589)</p> <p>フィリップ、ギエンヌ(アキテーヌ)公領の没収を宣言(1337)</p> <p>エドワード3世の長弓隊の活躍</p> <p>ペスト(黒死病)の大流行(1347~1348) ヨーロッパ全人口の1/3~1/5を失う</p> <p>領主たち、封建制を復活しようと農民たちに新たな負担を課す「封建反動」</p> <p>農民の反乱へ</p> <p>戦費をまかなうため、領主が新たに税の負担を課す(英、仏、百年戦争の時期)</p> <p>ポワティエの戦い(1356) エドワード黒太子の活躍</p> <p>ジャックリーの乱(1358)</p> <p>シャルル5世(賢明王, 1364~1380)</p> <p>(アヴィニオン派) 教皇ウルバヌス6世(1378~1389)</p> <p>英、仏、独、伊、対オスマン十字軍を結成 ハンガリー王ジギスムント主導</p>	<p>ハンザ同盟(都市同盟)の隆盛(14C) 帝国都市 皇帝・国王に直属、諸侯と同格で、軍役・貢納の義務を負う 自由都市 完全な自治を得る</p> <p>帝国都市が自治を強め「自由帝国都市」へ</p> <p>カール4世(ルクセンブルク朝ベームン王, 1347~1378) プラハ大学創設(1347)</p> <p>ペスト(黒死病)の大流行(1347~1348) ヨーロッパ全人口の1/3~1/5を失う 「封建制(領主制)の危機」</p> <p>農民人口激減 農民の地位向上 賦役、地代の軽減</p> <p>金印勅書を発布(1356) 7選帝侯の選挙により国王を選出 国王は教皇の承認を必要としない</p> <p>フランスに対立教皇が成立 教会大分裂(大シスマ)(1378~1417)</p> <p>フス(プラハ大学教授)の教会批判 贖宥状販売を批判</p>	<p>ダンテ「神曲」(1321)</p> <p>ハンザ同盟(「商人の仲間」Deutsche Hanse) 自治を獲得した都市が皇帝・諸侯に対抗するために結成</p> <p>通貨・度量衡・取引法を統一 陸海軍を持ち、北海・バルト海一帯を制圧</p> <p>ボッカチオ「デカメロン」(1353)</p> <p>7選帝侯 ケルン・トリール・マインツ大司教、ブランデンブルク伯ベームン王、ザクセン侯ライン宮廷伯 教皇クレゴリウス11世(1370~1378) グレゴリウス、教皇庁をローマに戻す</p> <p>(ローマ派) 教皇クレメンツ7世(1378~1394)</p> <p>チオンピの乱(1378) フィレンツェの小市民の反乱</p>	<p>(ポーランド) ポーランド統一 ヤゲウォ朝へ ピアスト朝 ドイツ騎士団の植民</p> <p>ヴワディスワフ1世(1320~1333) カジミェシュ3世(カンミール大王, 1333~1370) ポーランド統一へ ドイツ騎士団と和約 クラクフ大学創設</p> <p>ピアスト朝断絶へ</p> <p>(リトアニア) ドイツ騎士団に対抗</p> <p>大公ヤガイラ(1379~1392)</p> <p>カトリックに改宗し、ポーランド女王と結婚 ポーランド国王に</p> <p>ヴワディスワフ2世(1386~1434) ヤゲウォ朝(1386~1572)</p> <p>(オスマン) ムラト1世(1362~1389) アドリアノーブル征服(1362)</p> <p>バヤジト1世(1389~1402) ニコポリスの戦い(1396)</p> <p>西欧諸国の十字軍に勝利</p> <p>メフメト2世(1451~1481) コンスタンティノーブル陥落(1453) ビザンツ帝国滅亡</p>
1350					
1400					
1450					
1500					